

原水協活動 FAX News

発行：原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2007年11月5日 No.10

原爆症認定 集団訴訟 合い言葉は「3つの100万」 **愛知**

原爆症認定集団訴訟を支援する運動について、「3つの100万」を提起してとりくんでいる佐竹康行県原水協事務局長から手記を寄せていただきました。



12・4 九段集会のチラシ

愛知では、100万筆署名・100万円募金・100万羽の折り鶴という「3つの100万」を合い言葉に大きく取り組みを進めていこうと、署名推進（目標5万筆）、12・4「集団訴訟に勝利し核のない世界を求める夕べ」（於：九段会館）への参加・成功の2つを中心に、現況を伝えながら推進しています。

9月29日に開催した支援ネットの総会を節目に、10月はじめから、愛労連では方針をおろしていただき、県原水協では署名の要請と版下を加盟団体・地域原水協・役員（117箇所）に届け、協力団体（130箇所）には署名を届けながら進めてきました。現在の到達は2,000筆程度。目安目標を持ちながら、短期集中の必要性をもっと語っていかなければなりません。

10月30日の第2回の高裁弁論でも傍聴した80人余りの方に熱く提起しました。被告の被爆の実相と現状を余りにも無視した弁論に怒り集中。こうした厚労省側の立場を伝えることも推進の力です。

11月1日は、愛友会の理事長、副理事長、事務局長で、午前中に連合愛知、県職員組合に要請し、検討を約束してくれました。同時進行で、午前中は愛友会副理事長と、午後には原告の森さんと愛友会事務局次長と、佐竹がそれぞれ組んで19団体を要請訪問しました。12・4の募金をいただいたところや、集まった署名を渡してもらったところもあり、多くは積極的に受けとめて

てくれています。また、めいきん生協・みかわ市民生協では、それぞれの理事会で決定し、11月5日から取り組みを本格化します。組合員のうち、16万人にはダイレクトに届けます。県保険医協会では、署名用紙を保団連に注文し、11月1ヶ月で集めきろうとよびかけます。3日には、「あいち9条県民のつどい」で被爆者ととともに訴え、268筆と1,530円の募金が、4日には「あいち赤旗まつり」で1,090筆の署名と34,347円の募金、たくさんの激励をもらいました。（佐竹康行）

広島 年内決着へ緊急集会

広島では、原爆症認定制度の見直しの年内決着をめざす緊急集会が1日、広島市中区の平和ビルでありました。広島県原水協、原爆症認定を求める集団訴訟を支援する広島県民会議の主催で、約30人が参加し、12月までに100万人署名を達成する方針を確認しました。県被団協の金子一士理事長が「厚労省の専門委員会の検討内容をみると、原爆を過小評価する基本的態度を変えない心配がある。二度と核兵器を使わせない意思表示として、原爆の実相と被爆者の実状を踏まえた制度に見直すよう、12月までの短期決戦の運動に協力を」とあいさつしました。

弁護団による訴訟の経過報告に続き、原告団の玉本晴英副団長は「被爆者を62年間苦しめてきた結果を、一人4分で審査して放射能の影響がないとする国の姿勢に怒りを感じる」と決意を表明しました。

12・4九段集會に参加を

原爆症認定行政の抜本的改革を求めて開かれる、集団訴訟に勝利し核のない世界を求める夕べ（日本被団協原爆症認定集団訴訟支援全国ネット、集団訴訟全国弁護団主催）に参加しましょう。

日時：12月4日（火）午後6時から

場所：九段会館（東京メトロ「九段下」駅4番出口）

内容：安齋育郎（立命館大学国際平和ミュージアム館長）の講演、若者たちのリレートーク、原告被爆者のお話、弁護団による裁判と対政府交渉の報告など。また、バンドウーラ奏者・歌手のナターシャ・グジーさんや横井久美子さんのライブもあります。入場無料。

集会に先立ち、厚生労働省100万羽折り鶴包囲行動が午前11時45分から日比谷公園霞門（東京メトロ「霞ヶ関」駅B3a番出口）で行われます。